

三位一体主日特祷

永遠にいます全能の神よ、あなたは僕らに恵みを与え、まことの信仰をもって、栄光ある三位一体の神をあがめることができるようにしてくださいました。どうかこの信仰に堅く立って生き、すべての災いに打ち勝つことができますように、父と聖霊と共に一体であって世々にいき支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

旧約聖書 創世記 1章1－2章3節

1:1 初めに神は天と地を創造された。2 地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。3 神は言われた。「光あれ。」すると光があった。4 神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

6 神は言われた。「水の中に大空があり、水と水を分けるようになれ。」7 神は大空を造り、大空の下の水と、大空の上の水とを分けられた。そのようになった。8 神は大空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。

9 神は言われた。「天の下の水は一か所に集まり、乾いた所が現れよ。」そのようになった。10 神は乾いた所を地と呼び、水の集まった所を海と呼ばれた。神は見て良しとされた。

11 神は言われた。「地は草木を生えさせよ。種をつける草と、種のある実を結ぶ果樹を、それぞれの種類に従って地上に生えさせよ。」そのようになった。12 地は草木を生じさせ、種をつける草をそれぞれの種類に従って、種のある実をつける木をそれぞれの種類に従って生じさせた。神は見て良しとされた。13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。

14 神は言われた。「天の大空に、昼と夜を分ける光るものがあり、季節や日や年のしるしとなれ。15 天の大空に光るものがあって、地上を照らせ。」そのようになった。16 神は二つの大きな光るものを造られた。昼を治める大きな光るものと、夜を治める小さな光るものである。また星を造られた。17 神は地上を照らすため、それらを天の大空に置かれた。18 昼と夜を治めるため、光と闇を分けるためである。神は見て良しとされた。19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。

20 神は言われた。「水は群がる生き物で満ち溢れ、鳥は地の上、天の大空を飛べ。」21

神は大きな海の怪獣を創造された。水に群がりうごめくあらゆる生き物をそれぞれの種類に従って、また、翼のあるあらゆる鳥をそれぞれの種類に従って創造された。神は見て良しとされた。22 神はそれらを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、海の水に満ちよ。鳥は地に増えよ。」23 夕べがあり、朝があった。第五の日である。

24 神は言われた。「地は生き物をそれぞれの種類に従って、家畜、這うもの、地の獣をそれぞれの種類に従って生み出せ。」そのようになった。25 神は地の獣をそれぞれの種類に従って、家畜をそれぞれの種類に従って、地を這うあらゆるものをそれぞれの種類に従って造られた。神は見て良しとされた。26 神は言われた。「我々のかたちに、我々の姿に人を造ろう。そして、海の魚、空の鳥、家畜、地のあらゆるもの、地を這うあらゆるものを治めさせよう。」27 神は人を自分のかたちに創造された。神のかたちにこれを創造し男と女に創造された。28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて、これを従わせよ。海の魚、空の鳥、地を這うあらゆる生き物を治めよ。」

29 神は言われた。「私は全地の面にある、種をつけるあらゆる草と、種をつけて実がなるあらゆる木を、あなたがたに与えた。それはあなたがたの食物となる。30 また、地のあらゆる獣、空のあらゆる鳥、地を這う命あるあらゆるものに、すべての青草を食物として与えた。」そのようになった。31 神は、造ったすべてのものを御覧になった。それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

2:1 こうして天と地、そしてその森羅万象が完成した。2 第七の日に、神はその業を完成され、第七の日に、そのすべての業を終えて休まれた。2:3 神は第七の日を祝福し、これを聖別された。その日、神はすべての創造の業を終えて休まれたからである。

詩 編 第 150 篇

- 1 ハレルヤ、聖所におられる神をたたえよ // 力みなぎる大空におられる神をたたえよ
- 2 その力あるみ業のゆえに神をたたえよ // その偉大さのゆえに神をたたえよ
- 3 角笛を吹いて神をたたえよ // 琴を弾き、豎琴を奏でて神をたたえよ
- 4 鼓と舞を合わせて神をたたえよ // 弦をかき鳴らし、笛を吹いて神をたたえよ
- 5 高鳴るシンバルで神をたたえよ // 鳴り響くシンバルで神をたたえよ
- 6 息あるすべてのものは主をたたえよ // ハレルヤ

使徒書 コリントの信徒への手紙二 13章《5-10》 11-13節

《13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。6 不正を喜ばず、真理を共に喜ぶ。7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。8 愛は決して滅びません。しかし、預言は廃れ、異言はやみ、知識も廃れます。9 私たちの知識は一部分であり、預言も一部分だからです。10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れます。》11 幼子だったとき、私は幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていました。大人になったとき、幼子のような在り方はやめました。12 私たちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ていますが、その時には、顔と顔とを合わせて見ることとなります。私は、今は一部分しか知りませんが、その時には、私が神にはっきり知られているように、はっきり知ることとなります。13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残ります。その中で最も大いなるものは、愛です。

福音書 マタイによる福音書 28章16-20節

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスの指示された山に登った。マタ
17 そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。18 イエスは、近寄って来て言われた。「私は天と地の一切の権能を授かっている。19 だから、あなたがたは行って、すべての民を弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼(バプテスマ)を授け、
20 あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」